

少年の塔の整備作業を行いました

7月16日(土)に「少年の塔」周辺の整備作業を行いました。今回は、教育会常任委員、幹事、北部・南部地区の代議員、総勢53名の方々に作業をしていただきました。

皆様の作業のおかげで、塔が磨かれ、周辺の草刈りや木の剪定が丁寧に行われ、大変きれいになりました。

ありがとうございました。



整備作業の様子

少年の塔の由来

公益社団法人上伊那教育会会長 浦山哲雄



静かに佇む「少年の塔」

太平洋戦争終結から、77年の歳月が流れようとしています。

昭和7年(1932年)、満州国が誕生しました。「満州は日本の生命線」と言われ、満州を開拓して国の食糧不足を補い、併せて満州の治安維持を図るという国の政策に沿って、全国で満蒙開拓青少年義勇軍が、10代前半から後半の少年によって編成されました。上伊那からの参加者は600名を超えました。送り出すにあたっては、上伊那教育会が積極的に協力し、教師たちは多くの教え子を満州に送り出しました。この満蒙開拓青少年義勇軍の教師らによる積極的送出は、上伊那教育会にとっては戒めとして心に永く留め置くべき負の遺産となっています。

そして、昭和20年(1945年)8月8日、対日戦線布告したソ連軍の南下や関東軍の武装解除による大混乱のなか、多くの満蒙開拓青少年義勇軍に参加した皆さんが、若き命

を落としていくこととなりました。その数は上伊那で91名となります。

国策により学業を休み厳しい勤労に動員された学徒たちも含め、若くして散っていった上伊那郡下における物故者の霊を慰め、永遠の平和を祈念するため、上伊那の市町村会をはじめ、上伊那教育会の他、各種団体の協力により、伊那谷の生んだ芸術家、瀬戸田治先生の大作「鋤(くわ)を持ち彼方大陸より望郷の念にふける少年の像」を昭和36年4月、伊那公園に建立しました。

私たちは、過ぎ去りし日々の思いを寄せると同時に、戦後77年を過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和を誓うことをこめて、毎年この少年の塔の整備作業、そして、慰霊祭をおこなっています。今年は9月23日に少年の塔慰霊祭を計画しています。平和について改めて考える機会としたいと思います。